

第41号

いしかわ 成人病予防センター だより

いしかわ成人病予防センターだより

第41号〔2019年〕

発行日 平成31年(2019年)2月発行
金沢市鞍月東2丁目6番地
電話(076)237-6262
FAX(076)238-9207
郵便番号 920-8201
郵便振替番号 00750-7-16352
E-mail smile@kenshin-ishikawa.or.jp
URL http://www.kenshin-ishikawa.or.jp/



So
cool!!

リレー・フォー・ライフ・ジャパン
2018石川



がん語り部



東海北陸地区 予防婦人団体幹部研修会



東海北陸地区 予防婦人団体幹部研修会



がんサバイバー支援ウォーク

My favorite photo!
Memorial Event!

ごあいさつ

公益財団法人

石川県成人病予防センター

理事長 素谷 宏

明けましておめでとうございます
日頃よりセンターの検診事業に格段
のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。
センターの検診事業には人と検診車
が必要不可欠であります。
幸い人については毎年新旧交代が順
調に行われております。
昨年度は情報課一人、業務課一人、
総務課一人、今年度は検査課二人の
計五名もの若い職員の入職が実現し
センターは一気に若返りました。こ
れら若い職員の活躍を期待してやみ
ません。彼らに対するご指導ご鞭撻
をよろしくお願い申し上げます。
また検診車の更新が一台実現いたし
ました。
今まで三台のマンモグラフィ検診車
が稼働しておりましたがもともと古
い「ほほえみ1号」車の老朽化が著
しく、故障の不安を抱えながらの出
動にもそろそろ限界が見えてきまし
たので新しいデジタルX線撮影装置
を搭載した「ほほえみ5号」車を整
備することができました。これで乳
がん検診車の不安も解消されました。
今年も「正確な検診(健診)」、「迅
速な結果通知」を忘れずに職員一同
業務に励んでまいりたいと思います。

検診スタッフに聞きました

シリーズ② 診療放射線技師（マンモグラフィ検診班） 女性がん検診課 金井 麻由香

検査の精度向上に取り組み、 乳がんの早期発見に 努めています。

石川県初の
デジタルマンモグラフィ検診車

私たち診療放射線技師は放射線を使って、身体のエックス線写真を撮ることが主な仕事です。5つのがん検診のうち「肺がん検診」「胃がん検診」「乳がん検診」のエックス線撮影を行っています。平成30年に新しい検診車が整備されました。石川県内初となるデジタルマンモグラフィ装置を搭載した乳がん検診車です。これまでのアナログマンモグラフィ装置では一枚フィルムを交換して撮影し、検診が終わってから現像をして画像を確認していましたが、デジタル装置では撮影してすぐにモニターに画像が表示されるので、その場で画像の確認が可能になります。また、フィルム交換の手間もなくなり、検査がよりスムーズに行われるようになります。今回は新しい検診車の紹介と乳がん検診についてお話します。

乳がん検診

乳がん検診は、40歳以上の女性に2年に1回、マンモグラフィ検査で行われます（市町によっては毎年受診できます）。マンモグラフィとは乳房専用のエックス線撮影のことです。

乳房を左右別々に片方ずつ板で挟んで撮影します。乳房を圧迫するので、個人差はありますが多少痛い検査だと思ってください。乳房を圧迫することにも理由があります。

乳房を圧迫すると、乳房の厚さが薄くなり、エックス線による被ばくが少なくなります。また乳房が固定され写真がボケずにきれいな写真になります。重要なのが乳腺の重なりを広げることです。立体的に重なった乳腺を広げて圧す

ることにより、その中の病気がみつけやすくなります。

当センターではマンモグラフィは必ず女性の技師が撮影します。乳房を挟まれる痛みがわかります。そして乳がんを見つけるために圧迫が重要であることも知っています。検査に不安のある方は遠慮なく技師に申し出てください。痛すぎないように、けれど良い写真が撮れるように、常に考えながら圧迫し撮影しています。

また撮影技師は日本乳がん検診精度管理中央機構の講習会を終了し、評価を受けており、どの技師が撮影しても同じ写真が得られるよう努めています。撮影された写真は二人の検診マンモグラフィ認定読影医師に



ほほえみ5号 車体

よって判定されます。過去に検診を受け要精検となったことがある場合や、今まで異常なしでも今回気になる部分がある場合など、必要に応じて過去の写真との比較もしています。また、エックス線撮影における線量及び写真の画質について、日本乳がん検診精度管理中央機構の行う施設画像評価を受け、B以上の評価を受けています。

初めて乳がん検診を受けようという方も、今まで受けてこられた方も安心して受診してください。

新しい検診車の紹介

当センターには3台のマンモグラフィ検診車があります。今回は13年ぶりの整備です。車内レイアウトをこれまでとは変え、受診される方も、撮影する側も快適に過ごせるように設計しました。

駐車スペースの都合によりあまり車体を長くできなかったため、発電機を床下に入れ、車内をできるだけ広く、また段差なく使えるようにしました。

待合室

明るい色合いで、5人座ることができ、広さがあり、待っている間に自己触診の方法やマンモグラフィ検査についてのDVDを見ながらゆったり過ごしていただけます。(写真1)

更衣室

カーテンで仕切られた個室が3つあり、周りを気にせず準備をしていただけます。(写真2)



金井課長補佐



垣浦技師



橋爪主任



写真1



写真2



写真2

撮影室

リラックスしていただけるよう落ち着いた色合いになっており、技師の操作室とも一体感をだし、安心して検査を受けていただけます。(写真3)

撮影装置

撮った画像がすぐにモニターに表示されるデジタル装置です。乳房の圧迫の必要性は先にお話ししましたが、乳房は人それぞれ違います。今回搭載した装置の特徴の一つに、個々の乳房に応じて最適な圧迫圧で一旦停止するしくみがあり、過度な圧迫をしない助けになっています。

デジタル装置は繊細なので管理には気を使いますが、大きなトラブルもなく稼働しています。撮影技師のお気に入りは頭上に設置した扇風機です。(写真4)

車体外装には乳がんで命を落とすことがないよう、みんながほえんで暮らせるようにという願いを込めた大きなピンクリボンを描きました。

もし、この検診車が走っているのを見かけたら、今一度ご自身の健康について考えてみてください。そして、定期的にごん検診を受けましょう。



写真4



写真3

次回は胃がん検診班のお話です。お楽しみに！

わが町のがん検診

白山市 保健師 中谷 照美

市の概要

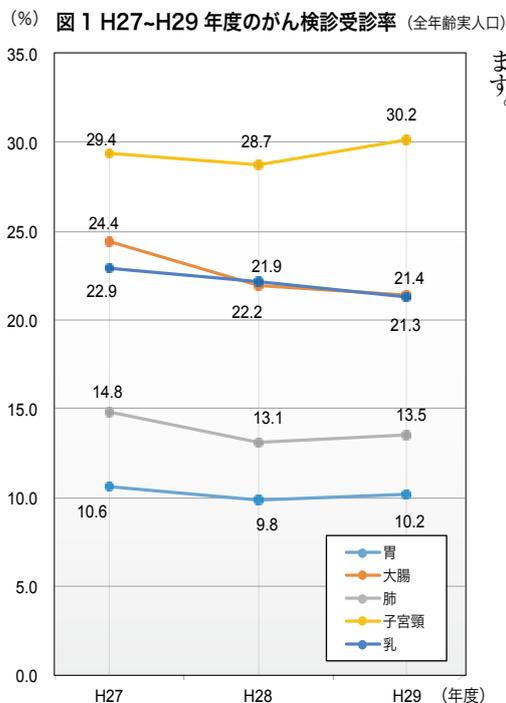
白山市は、石川県の南西部に位置し、平成17年2月に旧松任市、旧美川町、旧鶴来町、旧河内村、旧吉野谷村、旧鳥越村、旧尾口村、旧白峰村の1市2町5村が合併し誕生しました。

面積は754.93km²であり、県内全域の18%を占める広さがあります。

本市は、「健康」「笑顔」「元気」の3つの柱を基本理念として「誰もが健康でいきいきと暮らし続けられるまちづくり」を推進しており、母子から成人まで幅広い年齢層に応じた健康づくり施策を行っています。

平成30年10月末現在の人口は、113,599人であり、年少人口が占める割合は13.8%（15,657人）、高齢者人口は26.9%（30,545人）と少子高齢化が進んでいます。

死亡者数においては、ここ数年1,000人前後で推移していますが、そのうちがんによる死亡者は全体の約3割を占めており、国と同様、死因の第1位となっています。



白山市のがん検診と受診率

種別：胃、肺、大腸、乳、子宮頸、前立腺
実施期間…(集団) 6月～12月 集団会場で実施
(医療機関) 胃内視鏡検 6～9月
大腸、乳、子宮頸 6～2月

平成27～29年度の受診率は図1のとおりです。いずれのがん検診も国が目標としている受診率50%には届いていない状況となっています。

がん検診受診率向上の取り組み

〈検診体制〉

- ・各地区公民館、集会所等における胃、大腸、結核・肺がん検診の実施
- ・特定健診と同時実施。
- ・休日検診、託児つきなど実施。
- ・夜間女性がん検診の実施
- ・平成28年度より胃がん内視鏡検査(50～69歳)の導入(受診勧奨及び周知)

- ・がん検診開始年齢から69歳までの方に検診案内を個別通知
- ・全世帯に「特定健診：がん検診のお知らせ冊子」を配布
- ・8月上旬に再度がん検診のチラシを配布
- ・広報、ホームページへの掲載
- ・かかりつけ医等からの受診勧奨
- ・市で実施している母子保健の健診で呼びかけ

受診率向上のために、これまで子宮・乳がん検診対象者に個別通知していましたが、平成29年度からは全てのがん検診を対象に「今年度受診できるがん検診」について個別通知をしています。結果、一部のがん検診では受診率が向上しましたが、個別の受診勧奨だけでは思うよう

うに受診率が上がらないことも実感しています。

要精密検査受診者の受診状況と取り組み

ここ数年の要精密検査の受診者状況は、表1のとおりです。国が掲げる目標値90%を達成しているのは乳がんのみとなっています。

本市では、ハイグレード判定された方については訪問で受診勧奨をしています。また、精検未受診者については、電話での受診勧奨を繰り返し行っています。

毎年、市のがん検診では50人以上のがんが発見されています。この事業の目的である「がんによる死亡率の減少」に向けて、今後も検診受診率の向上と全てのがん検診の精密検査受診率を100%に近づけるように、成人病予防センターの方々と協力しながら取り組んでいきたいと思

表1 精密検査受診率とがん発見者数

がん種別	検査項目	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		精密検査受診率 (%)	85.9	88.1
胃がん (H28～内視鏡検査)	がん発見者数 (人)	5	9	12
	精密検査受診率 (%)	81.1	74.6	84
肺がん	がん発見者数 (人)	4	3	5
	精密検査受診率 (%)	77.3	82.7	78.7
大腸がん	がん発見者数 (人)	33	22	33
	精密検査受診率 (%)	75.3	75.8	87.2
子宮がん	がん発見者数 (人)	2	2	1
	精密検査受診率 (%)	94.9	95.2	92.1
乳がん	がん発見者数 (人)	19	10	3

フレッシュマンです

はじめまして！

私たち

センターの

まつだいら みすず
松平 美鈴
 職種：臨床検査技師



- ① 出身地：石川県金沢市
- ② 趣味：旅行、ゲーム、おいしいものを食べる
- ③ 特技：上半身が柔らかい
- ④ 好きな食べ物：ラーメン、お肉、お魚
- ⑤ メッセージ：

はじめまして、私は血液検査や大腸がん検診に携わる仕事をしています。現在はセンター内での仕事が主のため、検診会場で受診者の皆様と関わる機会はないかもしれませんが、縁の下の力持ちとして頑張っています。

センターで仕事をすることになって間もないため、臨床検査技師としてはまだまだ未熟で勉強中です。しかし、センターのみなさんに助けていただきながら、日々の成長を実感しています。これからも少しずつ仕事の幅を広げるとともに、県民のみなさまの健康増進のお手伝いができるよう、検診啓発活動などにも参加していきたいと考えています。

病気の予防や早期発見は健康を守る上でとても重要です。自分の健康を見つめ直す良い機会ですので、年に1回の検診を受けに来てくださいね！

- ① 出身地：富山県高岡市…（生まれは山形県です。）
- ② 趣味：ガーデニング、人間観察
- ③ 特技：細胞も好きですが、人も大好き。
初対面でも自分から話しかけていきます。
- ④ 好きな食べ物：シナモンロール
- ⑤ メッセージ：

皆様、こんにちは。私は主にセンター内にて子宮頸がん検診、肺がん検診（喀痰細胞診）、大腸がん検診（便潜血検査）、血液生化学検査を担当しています。

子宮頸がん検診が多い時期には、一日中顕微鏡を鏡検する日もあり、初めは大変に感じましたが、『正確な検診、迅速な結果通知』を肝に銘じ頑張っています。

日進月歩、医療の世界も進歩しています。私たちの検査の分野も日々変化しており、新しく学ぶ事が沢山あります。できるだけ学会や研修会等へ参加し自己啓発することが皆様への健康増進のお手伝いができると思います。皆様の生活がより健康で充実した毎日になりますように、私自身も健康に留意し、年齢を言い訳にはせず（笑）糧として頑張っていますので、どうぞ宜しくお願いします。

くぼ のりこ
窪 宜子

職種：臨床検査技師、
細胞検査士



▶ ベテランから新人へと繋ぐ

次々と世代交代がすすむ中で、確かな心を伝えたい。技術と共に熱い思いを、先輩からフレッシュマンに伝えます。



〈職員のつぶやき〉①



高桑 春子
 （たかくわ はるこ）

1年が経過することが早く感じる今日この頃…

センターの車庫前に朝検診に出ようと胃検診車が数台並んだ時は感極まり、涙が出た時もありましたがそれも早30数年が経ちました。のど里山海道を何百回と往来しても飽きないのはどうしてでしょう。四季折々を感じさせてくれました。





石川県で初の リレー・フォー・ライフ開催

（※リレー・フォー・ライフとはがん患者さんや
そのご家族を支援し、地域全体でがん向き合い、
がん征圧をめざすチャリティ活動です。）



堀 実行委員長

石川県で初のリレー・フォー・ライフが2018年9月29日（土）四高記念公園で開催されました。当日は台風24号の接近で朝から雨が降り続き最悪の天気の中の開催になりました。29日正午から30日正午までの24時間の開催予定を29日午後8時終了に変更しました。雨の中とは言え24チーム、約1200人の参加者があり会場は大変な賑わいをみせました。まず、サバイバー（がん経験者）だけでサバイバースフラッグを持ち会場を1周するサバイバースラップで開幕しました。ステージでは和太鼓・がんよろず相談劇・ウクレレ演奏とフラダンス・ヨサコイ等盛りだくさんの出し物が披露され、沢山の拍手が送られていました。中でもステージ終了間際のルミナリエ・エンディングテーブルでの詩の朗読は感動の渦につつまれました。最後は声を出さずに会場を1周するサイレントウォークで閉幕しました。

がんサバイバー支援ウォークで 垣添忠生先生（元国立がんセンター総長、 現在日本対がん協会会長） 石川県来県



※がんサバイバー（がん体験者）支援ウォークとは（ホームページより）

日本人の2人に1人ががんと診断されるといわれています。サバイバーの方で孤独感や疎外感を感じ孤立される方も多くいます。2017年6月、日本対がん協会では「がんサバイバークラブ」という事業を立ち上げました。全国のサバイバーをつなげる「がんサバイバーネット（仮）」を設置します。その作成のためのクラウドファンディングを始めました。今回資金集めと全国のがんサバイバー支援を呼びかけるために垣添先生は76歳の挑戦を決意し、全国がんセンター協議会加盟の32病院を訪ね、サバイバーと会って語り合います。総移動距離3,500kmを90日間かけて歩きます。

石川県には、2018年4月6日（金）来県されました。石川県ではJＲ美川駅から石川県立中央病院まで約20kmを歩かれました。中央病院では岡田院長のお出迎えを受け、その後「石川よろこびの会」の方々とご歓談されました。



編集後記

平成も数カ月で終わろうとしている。平成の時代を振り返ってみるとAI(人工知能)の進歩には目を見張るものがある。検診もレントゲンのアナログ撮影からデジタル撮影と進化しAIを駆使した技術もこの先参入してくるだろう。しかしAIが進化してもやはり重要なものは人と人を結ぶAI(愛)でないだろうか。愛のある検診をこれからも心がけていきたい。